

◆修正箇所抜粋

1. 委員よりご指摘があった人材関連部分「4」「51」「52」「59」について、評価を再考
2. 「再掲」となっていた部分で、表現が項目事項と齟齬が生じている部分「25」「26」「38」について、機構の評価内容を修正
3. 新型コロナウイルスによる影響部分については、観覧者数のアウトプットに関しては評価対象としない（ノーカウントとする）という委員のご指摘を踏まえ、関連箇所「11」「12」について、評価内容を修正
4. その他評価を変更した箇所について

1 人材関連部部分

項目4

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 4 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成 法人の活動を支える専門人材を安定的に確保するため、条件を整備するとともに、成果に対する適正な評価を実施する。 館蔵品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実をめざす。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：4 歴：4、経3 各館及び事務局において新たな人材を多数獲得することができた。学芸員では、欠員にともない歴史博物館（3名）、科学館（1名）、中之島美術館準備室（1名）を採用し、来年度4月採用者として自然史博物館（1名）、東洋陶磁美術館（1名）、歴史博物館（2名）で採用準備を進めた。	4	（理由） 学芸員は積極的な採用が認められるものの、当初予定されていた業務担当係長（6名）の採用を行っていないなど、一部計画通りに進んでいない状況であったため。	3 4
---	--	--	--	---	---	--------

項目51 52

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 51 包摂的な社会にふさわしい人材の獲得	（事務局） 年齢等にとらわれず、能力、適性に応じた人材を、職種を問わず採用する。	51	（事務局総務課） 機構発足後、独自採用や民間採用等、職種を問わず採用活動を積極的に行った。また陣害を持つ方の採用割合は公的な機関である当法人は2.5%（3人）となっているが、R2年度に充足するべく採用も行った。	4	（理由） 障がい者の積極的な採用実績が認められる。R2に充足するということであるため、R1では評価を3とした。	3
52 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（再掲） 業務の中核を担う職員を安定的に確保するために、中長期的な採用計画	（事務局） 広報や教育を担当する人材を安定的確保する。	52	（事務局総務課） 事務局経営企画課が機構全体の広報や博物館教育に関する事業を担当する部署で、そこに機構発足とともに		（理由） 中核を担う人材を確保したのは評価に値するところである	

及び育成計画を立案し、運用する。 年齢等にとらわれず、能力、適性に 応じた人材を採用する。 館蔵品保存管理、広報、教育、資金 調達等に特化した専門人材の安定的 確保と充実をめざす(再掲)。 【中期計画期間中の目標】 2021年度の大阪中之島美術館の 開館後は、準備業務に従事した職員 の削減を予定(3名程度)			、広報・教育に長い経験を有し、即 戦力となる課長代理を設置すること ができた。	5	。	4
---	--	--	---	---	---	---

項目59

【中長期的発展を見据えて取り組む 事項】 59 専門的な知識又は技能を有する民 間の人材の登用 広報や教育など適材適所で、専門的 知識を有する外部人材の登用を検討 する。		59	(事務局総務課) 機構発足とともに、5名もの専門職 である学芸員を採用した。また、R2 年4月採用に向けても4名の学芸員採 用を図った。さらに民間から広報を 担当していた人材などを歴博や美術 館等で課長職として採用するなど、 専門的な知識を有する人材を多数獲 得でき、民間からの登用も進めるこ とができた。	4	(理由) 当初予定されてい た業務担当係長(6 名)の採用を行えて いないなど、一部計 画通りに進んでいな い状況であったため 。	3 4
---	--	----	--	---	--	-------------------

2. 「再掲」の表現の齟齬を修正

項目 25

(大阪市立美術館) 国内外の美術館・博物館や寺院・神 社をはじめとする所蔵者と連携する とともに、新聞社・テレビ局などと 協働した特別展を開催する(年3~4回 程度)。 なお、改修工事実施に伴い、年度に より、開催回数変動することがある。	(大阪市立美術館) ア 国内外の美術館・博物館や寺院・ 神社をはじめとする所蔵者と連携す るとともに、新聞社・テレビ局等と 協働した特別展を開催する。本年度 は以下の6本の特別展を実施する(再 掲)。 ・「フェルメール展」(巡回企画) 2月16日~5月12日、開催日数76日 ・「改組新5回 日展」(巡回企画) 6月1日~6月30日、開催日数26日 ・「第65回全関西美術展」(自主企 画) 7月16日~7月28日、開催日数12日	25	(大阪市立美術館) ア 以下の特別展で、様々な関係者 と協働することができ、企画展の 充実を図ることができた。 ・「フェルメール展」(巡回企画) 協働先：産経新聞社、関西テレビ放 送、博報堂DYMメディアパートナ ーズ ・「改組新5回 日展」(巡回企画) 協働先：公益社団法人日展 ・「第65回全関西美術展」(自主企画) 協働先：読売新聞社	5	
--	--	----	---	---	--

	・「メアリー・エインズワース・浮世絵コレクション展」(自主・巡回企画) 8月10日～9月29日、開催日数44日 ・「仏像 中国・日本」(自主企画) 10月12日～12月8日、開催日数50日 ・「改組新第6回 日展」(巡回企画) 2月22日～3月22日、開催日数26日		・「メアリー・エインズワース・浮世絵コレクション展」(自主・巡回企画) 協働先：毎日新聞社、MBS ・「仏像 中国・日本」(自主企画) 10月12日～12月8日、開催日数50日 協働先：読売新聞社、NHK大阪放送局、NHKプラネット近畿 ・「改組新第6回 日展」(巡回企画) 協働先：公益社団法人日展		
(大阪市立自然史博物館) 博物館の収蔵品や学芸員の調査研究の成果の市民への還元や新たな価値の創出を目指し、主催特別展を開催する(毎年1回)。 国内外の自然史系博物館やマスメディアなどと連携して、特別展を開催する(年2～3回程度)。	(大阪市立自然史博物館) ア 読売新聞社などとの共済による「昆虫展」(予定)を実施する。	25	(大阪市立自然史博物館) 「昆虫展」(巡回企画) 2019年7月13日(土)～9月29日(日)について、読売新聞社、関西テレビ放送と協働で実施した。	4	

項目 26

	(大阪市立自然史博物館) ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する。(再掲) イ 受付カウンターなどでのタブレット端末を利用した翻訳や説明の支援を検討しすすめる。(再掲) ウ 授乳場所や祈祷場所など、来館者ニーズに応じたサービス提供を進める。	26	(大阪市立自然史博物館) ア No.1～10における活動で情報を収集した。 イ 同上 ウ 確保した。	4	
--	---	----	---	---	--

項目 38 番号間違い修正

	(大阪市立美術館) ア 展覧会等の関連事業としての講演会等を開催する(再掲)。	38	(大阪市立美術館) 再掲(No.13に記載)	4	
--	--	----	-----------------------------------	---	--

3. 新型コロナウイルス関連変更箇所

項目11

	(大阪市立美術館) コレクション展では、購入や寄贈によって集まった日本・中国などの絵画・彫刻・工芸など8400件をこえる館蔵品と、社寺などから寄託された作品を展示する。 【平成31年度予算目標】30,000人 (参考)常設展示入場者実績 <table><tr><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr><tr><td>39,005人</td><td>19,773人</td><td>68,556人</td></tr></table> ア 最新の研究成果を基に館蔵品及び寄託品を活用し、日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示に取り組む。 イ 館蔵品及び寄託品を紹介するため、本年度は「おおさかの仏教美術2」「花香鳥語ー中国明清の書画」「白いやきもの」等22本のコレクション展を実施する。	平成27年度	平成28年度	平成29年度	39,005人	19,773人	68,556人	1 1	(大阪市立美術館) 計画に沿って22本のコレクション展を実施した。 新型コロナウイルス感染症拡大対策のため2月末日で中断。この1か月の休館があったが、11カ月間営業期間で、入場者数は予算目標を大幅に上回った。 年間総入場者数 【令和元年度実績】98,471人 【平成30年度実績】30,908人 【平成29年度実績】68,556人	3	
平成27年度	平成28年度	平成29年度									
39,005人	19,773人	68,556人									
(大阪市立自然史博物館) 「自然と人間」をテーマにした展示を行い、自然科学研究の進展や、新たな資料やコンテンツの活用に合わせた適時の更新を進める(開館日)。常設展示室内で、小規模な企画展示を適時実施する。	(大阪市立自然史博物館) 人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、変遷や歴史を「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物の暮らし」のテーマで展示する。 【平成31年度予算目標】176,000人 (参考)常設展示入場者実績 <table><tr><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th></tr><tr><td>214,822人</td><td>244,587人</td><td>193,431人</td></tr></table>	平成27年度	平成28年度	平成29年度	214,822人	244,587人	193,431人	1 1	(大阪市立自然史博物館) 常設展示の入場者数実績は情報センター設置以降過去最高を更新。コロナ感染症対策による1か月の休館があったが、11カ月の営業期間で達成。 令和元年度実績 290,812人 (うち、有料 132,204人 無料 158,608人) 【平成30年度実績】常設展示入場者 228,182人 ア テーマ展示・コーナー展示を実施	4	
平成27年度	平成28年度	平成29年度									
214,822人	244,587人	193,431人									

	ア 常設展示室内でのテーマ展示・コーナー展示などを開催する。 ・「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」2019年12月を予定 ・「日本の古典椿」展示 2020年3月を予定 ・新たに収蔵した資料、被災資料の保全に関する展示などを予定(時期未定) イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活性化させる。 【参考：平成29年度実績】年間40回実施		3月～5月企画展示「標本を未来に引き継ぐ～新収資料展2019～」 8月～大山桂貝類学文庫 ミニ展示 12月～「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」 1月～「子年展」 3月～「日本の古典椿」(予定したが、コロナウイルス感染症により開催できず。展示資料について YOUTUBEにて動画3本を公開中) イ ワークショップは継続的に実施した。2月、および3月のワークショップは閉館により中止となり、36回実施。		

(大阪市立東洋陶磁美術館) 国内外の美術館・博物館などと連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催する(年3～4回程度)。 なお、改修工事实施に伴い、年度により、開催回数変動することがある。	(大阪市立東洋陶磁美術館) 以下の3本の特別展を実施する。 ・「文房四宝-清閑なる時を求めて」(自主企画) 4月6日～6月30日、開催日数75日 文房は、もとは中国の宮中で文書を司る役職または部屋をさし、唐時代に読書の部屋、書斎を指すようになった。この文房に備えられた大切な道具として挙げられるのが、筆・墨・硯・紙の「文房四宝」であり、貴重なものとして扱われた。文房具には、この四種以外にも印材・水滴・筆筒など様々な道具があり、皇帝を含めた高級官僚である文人の教養の高さや美意識に裏付けられた品々である。今回は、日本有数の文房具の個人コレクションから、中国の文人を魅了し続けた文房四宝の世界を、中国は明時代から清時代を中心に文房具約150点をもって紹介する。 【平成31年度予算目標】28,000名 ・「フィンランド陶芸 芸術家たちのユートピア-コレクション・カッコネン」・同時開催 「マリメッコ・スピリッツ フィンランド・ミーツ・ジャパン」(巡回企画) 7月13日～10月14日、開催日数81日 日本フィンランド外交関係樹立100周年を記念し、フィンランド工芸の世界に著名なコレクターであるキュオスティ・カッコネン氏の所蔵作品から、約130件によりフィンランド陶芸の豊かな世界を紹介する。フィンランド陶芸は、19世紀末のアーツ・アンド・クラフツ運動の影響を受けた作家による工芸教育の充実と、アラビア製陶所の美術部門を中心とした作家の自由な創作活動により花開いた。本展で	1 2 (大阪市立東洋陶磁美術館) ・「文房四宝-清閑なる時を求めて」(自主企画) 4月6日～6月30日、開催日数75日 文房は、もとは中国の宮中で文書を司る役職または部屋をさし、唐時代に読書の部屋、書斎を指すようになった。この文房に備えられた大切な道具として挙げられるのが、筆・墨・硯・紙の「文房四宝」であり、貴重なものとして扱われた。文房具には、この四種以外にも印材・水滴・筆筒など様々な道具があり、皇帝を含めた高級官僚である文人の教養の高さや美意識に裏付けられた品々である。今回は、日本有数の文房具の個人コレクションから、中国の文人を魅了し続けた文房四宝の世界を、中国は明時代から清時代を中心に文房具約150点をもって紹介した。 【入館者目標値】28,000名 【入館者実績】24,307名 ・「フィンランド陶芸 芸術家たちのユートピア-コレクション・カッコネン」 ・同時開催 「マリメッコ・スピリッツ フィンランド・ミーツ・ジャパン」(巡回企画) 7月13日～10月14日、開催日数81日 日本フィンランド外交関係樹立100周年を記念し、キュオスティ・カッコネン氏の所蔵作品を中心に、137件のフィンランド陶芸を展示した。同時開催の「マリメッコ・スピリッツ」展では、フィンランドのテキスタイル・ブランドとして知られるマリメッコのデザイナーによる日本をテーマとした作品を紹介した。また、マリメッコ社と京都で活動する茶室建築家の飯島照仁氏と相談しながら、同社のテキスタイルを用いた茶室を新たに制作し展示した。期間中には、飯島氏の講演会を呈茶とともに実施した。またナレッジ・キャピタルでの講座や、アートエリアB1と大阪大学と連携によるシンポジウムを開催した。	5
---	---	--	----------

	は、1950年代、60年代を中心に活躍した個人作家の作品を中心に、黎明期からの体系的な展示を行う。なお本展に併せて、鮮やかな色彩と力強いテキスタイル・デザインで知られるマリメッコを、日本との交流のなかで紹介する「マリメッコ・スピリッツ フィンランド・ミーツ・ジャパン」展を開催する。 【平成31年度予算目標】42,500名 ・「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクションーメトロポリタン美術館所蔵」（巡回企画） 12月21日～2020年4月12日、開催日数92日 ニューヨークのメトロポリタン美術館の所蔵となる、アビー・コレクションは、19世紀後半から現代までの日本の竹工芸の粋といえる。竹という「線」で構成された作品は、花入や籠であると同時に、近年ではその用途を超えて、造形的な魅力を持つ現代アートとして捉えなおされている。本展では、約70点のアビー・コレクションの竹工芸を、形態や主題に関連の見られる東洋陶磁美術館の所蔵作品とあわせて展示し、工芸という領域の広がりとその可能性を視覚的に提示する。また、大阪の誇る現代作家である四代田辺竹雲斎氏により、美術館の空間を活かした竹によるインスタレーションを制作する。 【平成31年度予算目標】33,000名		【入館者目標値】42,500名 【入館者実績】57,610名 ・「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクションーメトロポリタン美術館所蔵」（巡回企画） 12月21日～2020年4月12日、開催日数91日（当初予定） 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月29日以降は臨時休館とし開館日数53日。コロナ感染症の影響が出ている時期から開催しているため客足があまり伸びなかった。 ニューヨークのメトロポリタン美術館の所蔵となる、アビー・コレクション75件を形態や主題に関連の見られる東洋陶磁美術館の所蔵作品とあわせて展示した。また、大阪の誇る現代作家である四代田辺竹雲斎（1973-）によって、美術館エントランスの吹抜け空間の床から天井までを使用して、竹によるインスタレーション作品《GATE》が制作された。 竹工芸の現在の位置付けについて理解を深めるため、本展の日本巡回企画の全体に関わった、モニカ・ビンチク氏と館長によるトークイベントを実施したほか、四代竹雲斎との記念対談を実施した。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館した際には、企業の協力を得て展示室の3Dデジタルコンテンツを作成し公開したほか、オンラインの生放送などをおこないご来館いただけなかった方々へ向けて展覧会内容の公開に努めた。 【入館者目標値】33,000名（令和元年度分29,011名） 【入館者実績】15,655名		
（大阪市立科学館） プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、定期的にテーマを変え、実施する（開館日）。 小～中規模の企画展を開催する（年1～2回程度）。	（大阪市立科学館） ア プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、新プログラムを3か月に1本制作・投影、他館に配給する特別プログラムを年2本制作する。 【平成31年度予算目標】370,000人 （参考：実績）	1 2	（大阪市立科学館） ア 光学式プラネタリウムのリニューアルを実施するとともに、幅広い客層に対し個別にアプローチできるよう、プログラムの多様化（一般投影、ファミリータイム、学芸員スペシャル、学習投影）を図った。また、30周年記念イベントとして、3か月連続スペシャルナイトを実施するな	5	

平成27年度	平成28年度	平成29年度	
353,786人	356,694人	341,011人	
イ 「スーパートイ・積み木～その科学と歴史(仮)」 ドイツ博物館との特別連携を実施し、ドイツ博物館が所蔵する積み木に関する歴史的資料の展示を通して、積み木に関する物理学・数学・芸術、幼児教育に関する意義を紹介する。 【平成31年度予算目標】75,000人 (参考)平成29年度実績 同時期展示場観覧者数 69,995人			
ど、集客増に努めたことにより、開館以来最高の入場者数となるペースで推移していた。しかし、2月29日から3月31日まで新型コロナウイルス感染拡大防止により臨時休館したため、プラネタリウム入場者は351,932人。今年度の目標入場者数370,000人に対する達成率は95.1%であったが、1か月の休館を除いた場合の達成率は、104%となる。 プラネタリウムの入場口では投影プログラムに合わせたパネル展示(「アポロ」「オーロラ」)を実施するなど観覧客の満足度向上を図った。 <備考> 一般投影：3か月毎に2パターンずつプログラム更新を実施。今年度は新作を2作品投影(「宇宙ヒストリア」「星の降る夜に」) 特別投影「学芸員スペシャル」(新規実施)：各学芸員が専門性を活かして独自に企画したオリジナルプログラム。土日祝実施。 【平成30年度実績】215,558人(12月1日～3月29日は公開休止) イ 当初予定していた企画展「スーパートイ・積み木～その科学と歴史(仮)」は、連携先のドイツ博物館の事情により連携が困難となったため、準備段階において開催を断念し、当館の自主企画として下記③の企画展示を行った。その他の特別展示、特別展示と併せて今年度は以下の3件を実施した。 ①長良隕石特別展示：4/1～5/12(期間入場者数63,184人) ②特別展「国際周期表年2019特別展」：10/5～10/27(期間入館者数30,740人) ③企画展示「積み木のルーツ」：2/1～2/28(期間入場者数18,960人) その他、アトリウムとホワイエ(無料スペース)において以下の期間限定展示を行った。 ①「新コレクション展2019」(4/1～6/2) ②「アポロ月着陸50年」(6/28～12/1)			

			③「大阪市立科学館30周年」(9/5～12/1) ④「科学館のコンピュータ・コレクション」(12/17～2/28) ⑤「星図と星表」(1/5～2/28) ⑥「新コレクション展」(3/5～3/31、ただし臨時休館により公開なし) 【平成30年度実績】99,840人(9月3日～3月29日は展示場公開休止)		
(大阪歴史博物館) 国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、自主企画や巡回展により、特別展・特別企画展を開催する(年3～4回程度)。	(大阪歴史博物館) 以下の3本の特別展を実施する。 ・「浮世絵ねこの世界展」(巡回企画) 7月27日～9月8日、開催日数39日 平安時代に宮中のペットとして飼われ、その後、猫の生活の中に入り込んだ猫。本展では浮世絵の中に描かれた猫の世界をテーマに、猫の浮世絵で知られた国々のほか、国貞、豊国などの江戸・明治に活躍した絵師たちが、猫を様々に描いた浮世絵を紹介する。 【平成31年度予算目標】33,500人 ・「勝矢コレクション刀装具受贈記念 決定版 刀装具鑑賞入門」(自主企画) 10月5日～12月1日、開催日数50日 平成31年度以降に寄贈が想定されている刀装具コレクションのお披露目展。収集者の勝矢俊一氏(故人)は、戦前から戦後に掛けて京都大学や長崎大学などで教鞭をとった医学博士。京都府立大学の創設にも携わった。昭和に形成された刀装具コレクションとしては国内一の資料群としてつとに名高い。 【平成31年度予算目標】24,800人	1 2	(大阪歴史博物館) 3本の特別展のうち、予定通り2本の特別展を実施した。会期が終了した「浮世絵ねこの世界展」と「勝矢コレクション刀装具受贈記念 決定版・刀装具鑑賞入門」の結果は以下のとおり。 ○「浮世絵ねこの世界展」 ・開催日数は台風の影響のため38日となった。 ・予算目標 33,500人 ・入場者数 30,012人(対予算比89.6%) ・当館収蔵品を活用した大阪独自の展示コーナーを設けた。また、ねこに関わる常設展の展示物を活用し、常設展への誘導を試みた。ねこブームを利用できたことで、当館にあまり来ない客層を取り込めた。 ・収支率118.1%と黒字を実現した。 ○「勝矢コレクション刀装具受贈記念 決定版 刀装具鑑賞入門」 ・予算目標 24,800人 ・入場者数 27,058人(対予算比109.1%) ・音声ガイド、単眼鏡貸出、リピート割入場を導入し、コアな愛好者層の取り込みをはかった。 ・無料入場者の割合が高かった。 ○「猿描き狙仙三兄弟」 ・2月26日に開幕後、3日間のみ公開して、コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館し、再開できずに終了した。入場者数473人であった。 コロナ感染症の影響が出ている時期	3	

	・「猿描き狙仙三兄弟 一鶏の若冲、カエルの奉時もー」(自主企画・他館へ巡回) 2月26日～4月5日、開催日数35日 猿を描いて名を馳せた森狙仙(1749?～1821) とその兄弟、および子孫の画業を覧する。また動物絵画を得意とした森家の絵とともに「一科の芸」として名高い伊藤若の鶏、岸駒の虎、白井直賢の鼠、応挙の子犬奉時の蝦蟇らの作品により、江戸時代の大坂京における多様な動物表現をも紹介する。 【平成31年度予算目標 21,900人		から開催したため客足があまり伸びなかった。 なお、今年度は「勝矢コレクション 刀装具受贈記念 決定版・刀装具鑑賞入門」と「猿描き狙仙三兄弟」が自主企画展で、「浮世絵ねこの世界展」が巡回展と、自主企画展を充実させた。これは寄贈品のお披露目展と学芸員の長年の研究活動の成果展という博物館の基本活動に沿った企画という点で大きな意義がある。		
--	---	--	--	--	--

4. その他評価を変更した箇所

項目 12

12 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化 特別展等について、次の方針のもと、利用者ニーズにも配慮した魅力的な企画の実現に努める。		【機構の評価】 美：5、自：4、陶：5、科：5、歴：3 美術館「フェルメール展」(約54万人)、浮世絵コレクション展(約5.9万人)、東洋陶磁美術館「フィンランド陶芸」(約5.7万人)、歴史博物館「決定版・刀装具入門」(約2.7万人)の各展は目標入場者数を上回った。自然史博物館「昆虫展」は小・中学生有料化の検討により広報が出遅れたが、目標に迫る成果を上げ収益は黒字化した。科学館のプラネタリウムは入場者が目標値(37万人)を超える見込みで、新たに開始した「学芸員スペシャル」も	5	(理由) 特別展で目覚ましい実勢を挙げていることは認めるものの、一方で竹工芸展や刀剣展など想定より振るわなかったものもあったため。	4 5
--	--	--	---	---	--------

		好評であった。			
--	--	---------	--	--	--

項目 20

【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 20 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信 紙・マスメディア・SNSなど各種媒体の特徴を生かした情報発信を行う。 最適な時期や場所を逃さない情報発信を行う。 外国人観光客の動向に応じた情報発信を行う。		【機構の評価】 美：3、自：3、陶：4、科：3、歴：3、経：4 各館とも計画通りに進めた。東洋陶磁美術館ではコロナによる休館時に、ニコニコ美術館として展覧会内容の配信を行った。事務局では広報誌、SNSなどにより積極的に情報発信し、ICOM京都大会ではミュージックフェアへの出展や、オフサイトミーティングを含め、機構・各館のPR、国際交流を進めることができた。	3	(理由) ICOM京都大会を通じて、各館のPR、国際交流を大いに深めたと評価できるため。	3 4
---	--	--	---	--	-------------------

項目 22

【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 22 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定 国内外からの来館者や各種活動への参加者のニーズを把握するため、必要な調査(マーケティング)やデータ分析を行う(再掲)。 各種活動への参加者に対するアンケート等を実施し、ニーズの把握に努める。 広報専門職員や外国人スタッフの確保など、外国人観光客や海外に情報発信するための体制整備や戦略立案に努める。		【機構の評価】 美：3、自：3、陶：4、科：3、歴：4、経：3 各館では計画通りに実施した。事務局では各館の入館動向等は把握・分析し、おもに訪日観光客の誘致の強化に取り組んだ。	3	(理由) 事業報告書によると、広報活動の分析がアンケート等による個々の館や事業毎の分析にとどまっておらず、戦略立案に至っていないと判断するため	3 2
---	--	---	---	---	-------------------